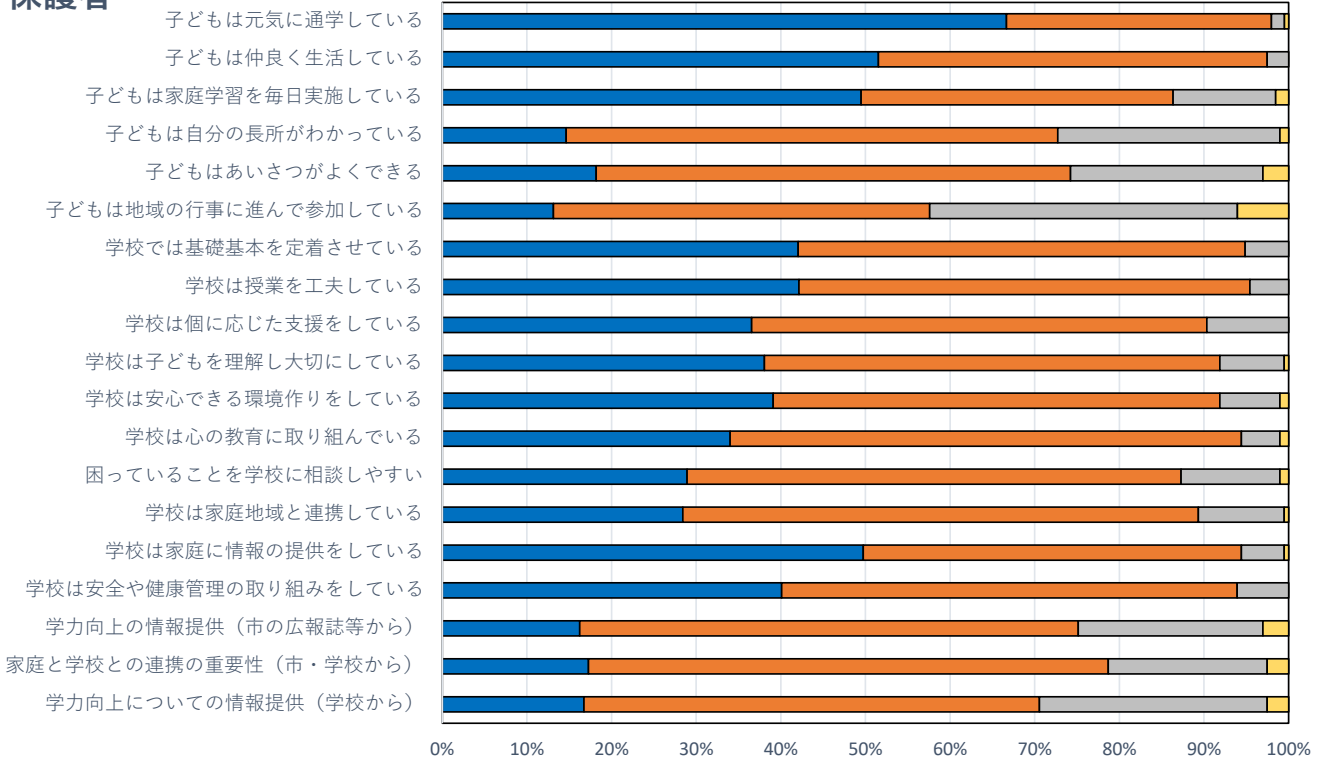


学校評価(令和元年度 第1回目)

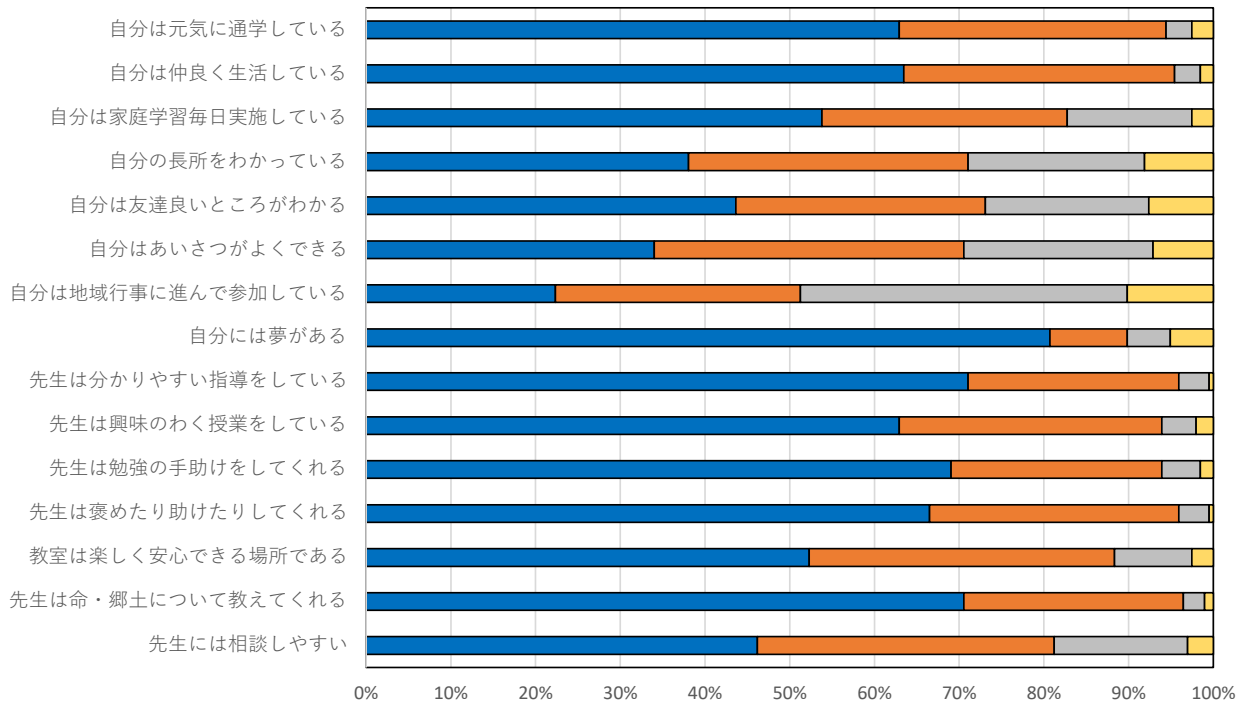
ここでは、7月に実施した令和2元年度の第1回目の保護者・児童からの学校評価と教員の自己評価についてお知らせしています。集計の結果から、『そう思う』+『まあそう思う』を【良い点】、『あまりそう思わない』+『そう思わない』を【改善点】と捉え、分けて記述しました。アンケートへのご協力、ありがとうございました。

■そう思う ■まあそう思う
■あまりそう思わない ■そう思わない

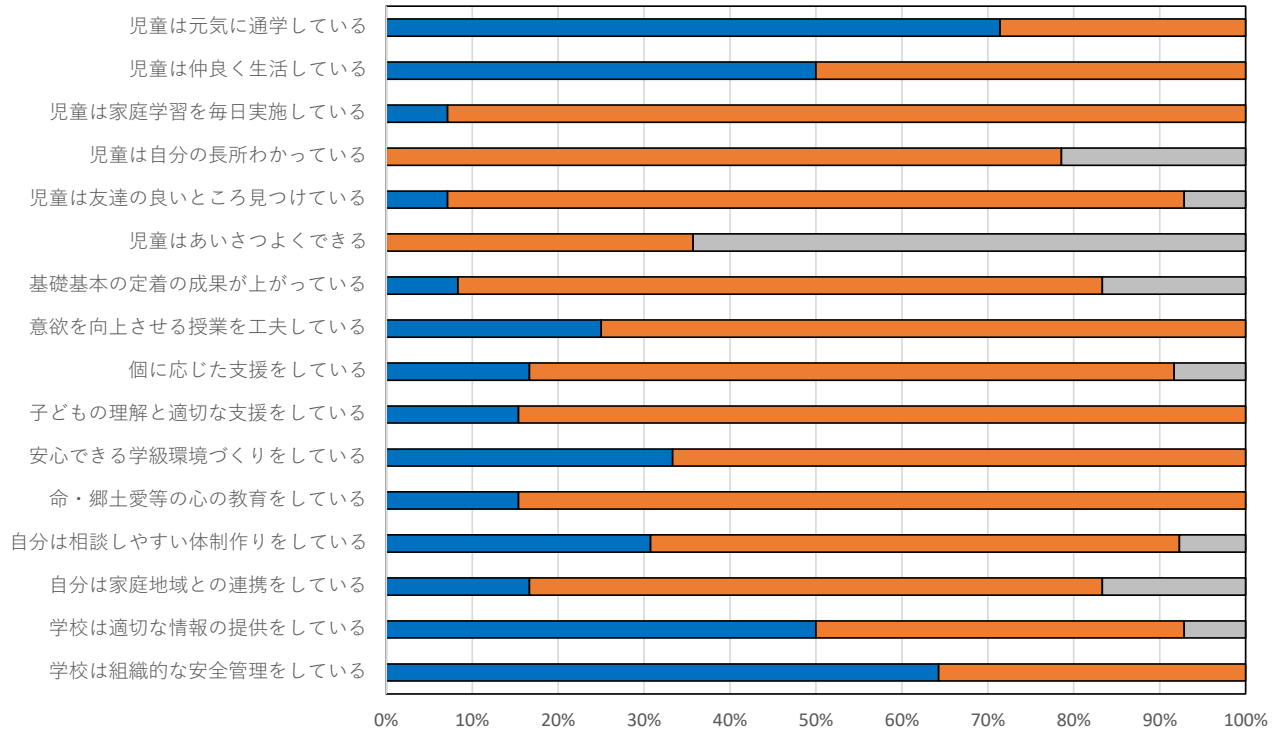
保護者



児童



教職員



回答に対し、「そう思う」「まあそう思う」を肯定的な意見、「あまりそう思わない」「そう思わない」を改善を要する意見としてとらえました。

【良い点】

- ① 保護者・児童・教職員とも、「元気に通学している」「命を大切に、仲良く生活している」という答に対して、高い割合を示しています。
- ② 学習面に関する3項目「分かりやすい授業」、「意欲を高める工夫」、「個に応じた支援」については、保護者・児童ともに肯定的で、高い割合を示しています。今後も、学校全体として重視している「授業が楽しく分かりやすいと思える児童」が増えるよう、授業の工夫改善に取り組んでまいります。
- ③ 子ども理解に関する3項目「一人一人を大切にしている」、「安心な学級環境」、「生命尊重・郷土愛」についても、保護者・児童ともに肯定的で、一定の評価をいただいておりますが、児童間のトラブルやいじめ問題等への対応など、定期的な情報収集を密に行い、高松っ子が安心して学校生活を送れるよう、今後も努めてまいります。

【改善点】

- ④ 現在、コロナ禍において地域との交流が行われていない状況ではありますが、「地域行事に進んで参加している」に関しては、保護者・児童ともに昨年度同様、低い割合を示しました。コロナウイルス感染症が収束した頃を目処に、公民館や地域と連携を図りながら、各家庭並びに児童への情報提供を行い、参加率アップを目指していきます。
- ⑤ 「あいさつがよくできる」については、保護者・児童と教員の回答に大きな差が見られました。児童は、校舎内では大きな声であいさつができています。しかし、登下校時などの学校外で、地域のみなさんへのあいさつを苦手としている様子が見られます。学校内はあくまでも練習の場で、学校外（一般社会）で自分から進んであいさつができる高松っ子の育成を目指していきたいと考えております。保護者・地域の皆様、今後も児童への声かけをよろしくお願いいたします。

